

1 学期 始業式

校長 栃倉 和則

春休み期間中に、トロフィールームの整理を行いました。校長室前にあるガラスケースのことです。文芸部の学友が、部室にあったものを飾ってほしいと持参したことがきっかけでした。そう言えば、古いものが多く、順番も何もばらばらで、埃まみれのものもあるなあと、校長室の棚の中に埋もれていたものも飾って、並べなおしました。

一つ一つの賞状や盾、トロフィーの埃を払い、磨きながら見ていると、みなさんの、あるいは卒業生の努力や表情が脳裏に浮かびました。豊多摩 80 年余の歴史の中で、数々の部活動が活発に活動してきましたが、頑張ったみなさんの栄光の証です。実にしみじみとした気持ちになりました。私も 20 数年前、一人の部活動顧問として、豊多摩高校にお邪魔していました。豊多摩の学友たちの元気で活発な様子が忘れられません。

これまで丸 3 年間、コロナのせいで活動が途絶え、多くの者が涙したと思います。活動したいのに、できない。俺たちの青春を返せ、という気持ちだったのではないかと思います。気持ちは痛いほどわかります。私自身も、そんな皆さんを見ていて、とても辛かったからです。でも、悔やんでも仕方がない。要は、これからが大切だということです。みなさんの高校生活、みなさんの青春はこれから。ということで、遠慮は禁物。伸び伸びと、自分の限界など定めることなく、部活動に行事に精いっぱい、汗を流して頑張ってもらいたいと願っています。行事の運営についても、三年間途絶えたことで、豊多摩の伝統も薄れてしまっているのかもしれませんが、だから、何をどのようにやろうかということは、これからの発想次第ということにもなります。新しいものを築くというクリエイティブな精神が必要です。既成の概念にこだわることなく、常に新たなものを産み出すという想像力をもってください。

部活動では、最近、高校スポーツの世界も激化していて、なかなか賞状を取ることが難しくなっています。昔よりも学校の数も増え、私立高校をはじめ一部の高校が運動部に特化していて、人口の多いスポーツでは特に難しくなっている現状です。どれだけ頑張ったところで、賞状がもらえることのない部もあることは事実です。

そこで、私から二つのことについて提案をしたいと思います。

ひとつは、部室に埋もれている賞状やトロフィーなどがあれば、個人で所有しているものも同様ですが、期間を限ってお貸しいただけませんかということです。せっかくもらったのに、埋もれていては残念すぎます。もし貸していただけるなら、一定の期間、校長室前のガラスケースに飾らせていただきます。

もうひとつは、活動報告について。豊多摩には様々な部活動があって、みんな上位を目指して頑張っている。折にふれて、その活動報告を具体的な形で、いただけませんかということです。たとえ賞状などがなくても、頑張っているみなさんを紹介することで、

皆さんの励みになればと思っています。いつ、どのような形でということについても一緒に考えさせてください。

ともにポストコロナ、アフターコロナの時代を築いていきましょう！

Touch the Sky!